

第9回アーカイブ研究会

レクチャー

文化の領野と作品の領野 —アーティファクトとしての視覚文化—

講師

石岡良治

概要

拙著『視覚文化「超」講義』（2014）は、現代を「情報過多時代」と捉え、そうした条件のもとでの視覚文化について考察している。そこでとりわけ注目したのは、YouTube などの「動画サイト」の存在などによって、膨大な情報が「イメージ」として可視化されていく傾向性である。このとき、「アーカイヴ」と「展示の空間」といった区別についての従来のイメージは大きく変容を被るように思われる。暗がりにあった資料に光を照らす、というイメージから、事物やデータの水平的な移動というイメージへの移行が何をもたらすのかを考察する。

講師プロフィール

石岡 良治（いしおか よしはる）

批評家・表象文化論。青山学院大学ほかで非常勤講師。著書に『視覚文化「超」講義』（フィルムアート社、2014年）『「超」批評 視覚文化 × マンガ』（青土社、2015年）。

7月17日（金）

15:00 - 17:00

参加無料（事前予約不要）

京都市立芸術大学 アトリエ棟 3F

構想設計ゼミ室